

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北活性化研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	衣料品専門店 （店長）	来客数の動き	・今年の夏は暑く、半袖、サマースーツ等の夏物需要が例年の勢い上回る売行きで、売上全体を押し上げている。また、例年と比べ来客数が大変多くなっている。
	やや良く なっている	一般小売店〔雑 貨〕（企画担 当）	来客数の動き	・今年の夏は気温が非常に上がったため、夏物商材の売行きが良くなっている。
		百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・この数か月、来客数が前年を若干下回る状態が続いていたが、8月に入り催事の関係もあり前年を上回ってきている。また、気温が高いために高齢者の来店は減っているが、週末のファミリー層の来客が増えている。
		百貨店（売場担 当）	お客様の様子	・担当する婦人服部門は、暑さの影響で夏物セールの動きが好調となっており、売上は前年比を上回る伸びである。また、秋物（今すぐに着れる秋色夏素材の商材）の動きも良い。セールに関しては前年比2けたの伸びで、8月以降好調に推移している。
		百貨店（販促担 当）	来客数の動き	・気温の変化に対応した季節商材の打ち出しに客の反応がある。また、セールの好調も目立っていることに加え、中元ギフトの売上も好調に推移している。
		百貨店（経営 者）	単価の動き	・買上単価及び買上点数が上昇してきている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・猛暑の影響でアイス、飲料といった夏物商材の売行きが好調となっており、売上全体が上向いている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・猛暑の影響で、前年の1.5～2倍の売行きとなる夏物商材も沢山出てきており、全体の販売量が伸びている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・販促策を強化したこともあり、既存店売上高と客数の前期比が6月、7月、8月と月を追って回復傾向にある。また、1品単価も下げ止まり傾向にある。
		スーパー（営業 担当）	来客数の動き	・来店回数は増えているが買上点数がそれほど伸びていない。気温が高いために日々の買物で鮮度を重視し、無駄な買物をしない傾向がみられる。ただし、残暑の影響で、飲料やアイスなどの涼味商材中心に動きが良くなっている。
		コンビニ（経営 者）	販売量の動き	・暑い日が続く、冷たい飲料の売行きが好調となっている。
		コンビニ（エリ ア担当）	販売量の動き	・猛暑の影響が大きく、客数は増加し売上も増えている。ただし、売れているのは飲料・アイスクリーム等の猛暑を反映した商品が主であり、実質的な買上点数・客単価は増加していない。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・猛暑の影響で、清涼飲料やアイスクリーム、冷し麺といった季節商材が好調に推移している。
		衣料品専門店 （店長）	お客様の様子	・残暑が夏物の消化促進を後押ししており、秋物の立ち上がりの遅れを客数の増加でカバーしている。
		衣料品専門店 （総務担当）	販売量の動き	・猛暑による夏物商材の販売数が伸びている。また、レジャー用品の売行きが好調となっている。
		家電量販店（店 長）	販売量の動き	・液晶テレビ、エアコン、冷蔵庫が好調に動いている。特にエアコンはメーカーの生産が追いつかないほどの売行きをみせている。
		乗用車販売店 （経営者）	販売量の動き	・8月に入って、エコカー購入補助金の駆け込みが本格化してきている。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金の終了に伴う駆け込み需要により、販売量が多少伸びている。
		その他専門店 〔酒〕（経営 者）	販売量の動き	・予期せぬ猛暑で、主力商品であるビール、清涼飲料水の売上が増加している。前年のようなゲリラ豪雨等の被害もなく、7月の勢いそのままに8月に入った感が強くなっている。
		高級レストラン （支配人）	競争相手の様子	・向かいに外資系のホテルが開業してから明らかに人の流れが変わっており、当社にとっては良い方向で人が流れている。
その他サービス 〔自動車整備 業〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑により受注量が増加している。		

変わらない

商店街（代表者）	販売量の動き	・猛暑の影響か、来街客が落ち込んでいる。
商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑が続いており、飲食関係、特に飲み物は好調なようだが、ファッション商品並びに物販においては消費が低迷している。
商店街（代表者）	お客様の様子	・猛暑の影響で、飲料、家電、サングラス、衣料が全体の売上をけん引しており、婦人衣料店のなかには夏物が底をついた店もある。しかし、売上高が好調だった割には、来客数は前年を下回っている。
一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・例年、七夕まつりやお盆で来客数が増えるものの、今年は暑さでドリンク1本だけ購入する客が多く、客単価は低下している。
一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・猛暑で、夏物商材、飲料、滋養強壮剤、栄養剤、日焼け止めなどが良く売れている。ただし、必要なものしか購入しないという客の傾向は強くなっている。
一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・売上の大半は一部の高単価の客層に支えられているが、客の大半は低価格志向を更に強めている客層であり、顕著に分化している。
一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・販売量、売上共に横ばいで推移しているものの、消費者の低価格志向が続いており高額商品の動きが鈍い。
百貨店（広報担当）	お客様の様子	・猛暑でエアコンなどに動きが出ているものの、低価格志向が根強いほか、それ以外の商品の動きが悪いため、売上を大きく押し上げるまでには至らない。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・猛暑の影響により飲料やアイスクリームが好調となっている。客単価は野菜相場の上昇により改善している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・猛暑の影響で飲料系は伸びたが、逆に売上が落ち込んだ部門も多い。お盆商戦も13日だけが伸び、その前後の買い控えがより際立っている。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・平均単価は前年比5%弱の減で、前月に引き続き下げ幅が減少傾向にある。猛暑の影響で冷凍食品、アイス、飲料、ビールのほか、冷やし麺など涼味、さっぱり系食材や飲料の動きが売上をけん引し、既存店売上高が前年の水準になっている。ただし、消費動向として平均単価の改善が進んでいるわけではないので、実質はほとんど変わらない。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・売上は前年比101%、来客数は同103%と前月に続き好調である。猛暑の影響で飲料、ビール、アイスクリームが特に売れている。また、105円均一や、加工食品の1,000円を中心とした商品も好調で、客単価は前年の95%にとどまっている。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・好天の影響により、販売量が改善している。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・平均気温の高さから客の購買意欲が高まり、店舗の売上増加につながっている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・猛暑により、サマーフォーマル、半袖シャツ、スラックスなどを目的に来店する客が増えている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー購入補助金を追い風に、新車販売は依然として好調で、直近四半期も前年比130%と高い伸びを見せている。
その他専門店〔呉服〕（経営者）	来客数の動き	・暑い日が続いているため、主な客層である高齢者の来店が減っている。
その他専門店〔パソコン〕（経営者）	お客様の様子	・客が必要最低限の買物しかしないという傾向は続いている。
その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・葉物野菜の高騰や高付加価値食品の厳しい状況があり、売上の低迷が続いている。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	来客数の動き	・猛暑の影響もあって、飲食店の来客数が減少している。一方で、第3のビールやバック酒等の低価格商品への移行が一層進んできている。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・猛暑続きで例年以上に衣料品の動きが悪く、全く動きがない状態となっている。

	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	それ以外	・猛暑によりガソリンの販売量は増加しているが、円高の影響で仕入価格が下がり、それ以上に販売価格が低下したため、業務利益が減少し、経営状態が悪化している。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が少なく、客単価も低い状況は変わらない。
	その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	来客数の動き	・来客数の少ない状況が依然として続いている。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・七夕まつり、お盆、夏休み等のイベントがあり館内にはぎわいを見せたが、団体客が少ないため人数が伸びず、全体の売上は前年比5%減となっている。
	観光型ホテル（スタッフ）	それ以外	・暑い日が続いたので、客の足が温泉に向いていない。インターネット予約については、プランによって客の増加もみられるが、デフレ傾向から、通常予約の客については良い状況にはない。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・前年比で10～20%割れの非常に厳しい状況が8か月以上続いている。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・竿燈祭りの来場者は前年より多く、猛暑による影響はさほど出ていないが、にぎわいは欠けており、売上は前年並みかやや下回っている。
	旅行代理店（店長）	販売量の動き	・個人旅行の最繁忙期だったが、宿泊を伴う国内旅行が大きく前年を下回っている。前年は9月の大型連休で分散化したが、それを下回る結果となったことが非常に痛手となった。海外旅行は円高の影響からお得感が増し、ハワイ、欧州の販売が伸び、団体旅行は地域の大型団体の取扱により好調である。
	旅行代理店（従業員）	それ以外	・競合他社の店舗閉鎖により来客数は増えているものの、それ以外に景気が上向くと感じられる要素はない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・連日の暑さにより高齢者が外出を控えている。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・初期費用の負担については、いまだ消極的な姿勢がみられる。
	テーマパーク（職員）	お客様の様子	・来客数と比較して客単価が伸びず、土産物も低価格なものを探して購入している様子がうかがえる。またレジャー支出は、夏休みに入っても抑制傾向がみられる。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数が数%落ち込む状態が続いている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少幅が前年と同じような状況で推移している。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・夏はヘアカットやヘアチェンジをする客が多いが、猛暑による出控えから来客数が減少している。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・不動産の動きも徐々に見えてくるようになっており、若年層の建築受注の動きが若干出てきている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費マインドに大きな変化はなく、消費者は節約生活が定着している。商業環境は依然として非常に厳しい。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	それ以外	・お盆に動く商品が全く動かず、人は入ってきているが、どこに動いてどこにお金を落としていっているのか分からない状況である。
	一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	お客様の様子	・猛暑も影響してか、商店街自体に人がいない状況となっている。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・猛暑の影響もあり、来客数が少ない。肌着、ランジェリーなど好調な商品群もあるが、衣料品は全体的に厳しくなっている。例年であれば売れ出してきている初秋物がほとんど動かず、夏物商品は品薄のため対応できない状況である。
	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・今年の暑さと不景気が影響して、催事の会期を前年より3日間延長したが、客数は前年を下回っている。また、書道展の入場者数も同様に、前年割れの状況である。
	百貨店（経営者）	販売量の動き	・例年だと既に動いている秋物商材、特に衣料の動きが、暑さの影響もあり悪い状況となっている。
	百貨店（経営者）	お客様の様子	・猛暑により、年配客は買物に出ることも控えている様子がうかがえる。また、景気の不透明感も重なり、単価に対して更に敏感になっており、夏物衣料セール待ちの客が多くなっている。

	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数に大きな変化はないが、買物にあまりお金をかけない傾向が見受けられる。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・暑い夏の影響で、水や氷菓子が伸びているが、たばこの販売が前年比85%と大幅にダウンしており、それをカバーした程度である。また、水を求めての来客数が増したが、買上単価は前年比マイナス4ポイントであり、先月は上昇したがまた下落している。ただし、6月に記録した最低ラインは割り込まずに踏みとどまっている。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・連日の暑さにより、来客数が激減している。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・先月からのセールも、品ぞろえがかたよってきているため思うように売れない。今月初めから立ち上がった秋物に目が行く客も多いが、残暑が長く続くという予報もあり、すぐには売上につながらない。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー購入補助金の再延長がないことが決定してから、予想を上回る駆け込み需要がみられ、来客数も増加している。今月は先食いの駆け込み需要の発生で、新車販売も前年比30%前後の伸びになるとみている。ただし、昨今の円高、株安により、法人需要は縮小傾向にある。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー購入補助金が9月末で終了することもあり、売行きは前年比で鈍くなってきている。
	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・販売量は、一進一退を繰り返しつつも少しずつ減少している。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・全体的には上向いているものの非常に低い水準であり、利益等を考えると数字はまだ悪い。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・客単価は変動していないが来客数が減っている。客の話からは、先が見えない状況で、ぜいたくを極力控えていることがうかがえる。
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・値下げしないと客は食べに来てくれない状況になっている。
	一般レストラン（支配人）	単価の動き	・猛暑により来客数は前年並みだが、客単価が、昼、夜共に15%減少し、財布のひもが固い状況が続いている。
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・宿泊部門は単価の下落幅が大きく、大変厳しい状況になっている。また、料飲施設においては、客単価がここ数か月下がりに続けている。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・屋上ピヤガーデンは値ごろ感や猛暑も手伝って、8月としては過去最高を記録しているものの、その他一般宴会や宿泊については振るわず、宿泊はオンシーズンにもかかわらず低調である。お盆期間についても、期間が短いことや分散化が進んだこともあって、山といえるものはない。
	都市型ホテル（スタッフ）	競争相手の様子	・新規開業した競合の大型施設へ客が流れているため、全館で売上が前年を下回っている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・お盆の帰省客や観光客を期待したが乗客は全くなく、売上は前年を割っている。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・今月に入り受注計画のあった仕事が保留になり、先がみえない状況である。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑の影響で客足が非常に悪くなっている。
	一般小売店〔書籍〕（経営者）	単価の動き	・アメリカ、ヨーロッパの為替変動により円高基調になっていることや、政府の経済対策の効果が全くみられないといったことにより、消費マインドが一段と低下している。
	スーパー（経営者）	単価の動き	・円高が更に進み、デフレ傾向が一段と鮮明になってきており、客の購入単価が下がっている。また、物価の下落と共に販売量、販売額がますます減少している。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・猛暑効果とお盆期間の帰省客の増加というプラス要因もあったが、依然としてデフレが進んでおり、買い控え、1品単価の下落に歯止めがかからない。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・失業者数が依然として多く、客単価も低くなっている。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・猛暑が続くなか、来客がない日もある。
	乗用車販売店（経営者）	それ以外	・円高やデフレにより、売上が減少している。

		一般レストラン（経営者）	それ以外	・すべてにおいて悪い状況である。イベントを開催するなど対策をしているものの集客にはなかなか結び付かず、苦心している。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・個人客は増加しているが団体客の落ち込みが大きいため、原価、経費の見直しを実施しても、固定費が吸収しきれない状況が続いている。また、館内での2次消費も減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・前年の冷夏から一転猛暑となり、宿泊部門においては期待した海水浴客、レジャー客が逆に減少している。また、高速道路料金無料化などの影響もあり、最大の集客エリアである関東圏の客が更に遠方に足を伸ばした様子がうかがえる。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・観測記録を超える猛暑による出控えに加え、お盆の時期ににわか雨にたたられたため低調に推移している。好調であった前年を約20%下回る見込みである。
企業 動向 関連	良く なっている やや良く なっている		-	-
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・7月の梅雨明けから猛暑が続いたため、桃の品質がととも良く、売行きも好調となっている。また、贈答品の注文も前年並みとなっている。
		農林水産業（従業者）	競争相手の様子	・スイカを生産する農家は、猛暑の影響による価格高騰で潤っている。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・牛タンを素材にレストラン経営とお土産の販売をしているが、七夕まつりやお盆期間の暑さの影響が、お土産として生ものを持ち運びするのが敬遠されたようで、来客数が落ち込み、売上は前年を割りそうな状況になっている。
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅着工が関東地区を中心に堅調なため、部材の需要が比較的順調に推移している。
		土石製品製造販売（従業員）	受注量や販売量の動き	・猛暑や集中豪雨の影響で、土砂崩れや河川の氾濫による復旧工事の受注が増えている。
		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・工事案件はあるものの、コストの面で厳しい状況が続いている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・市内中心部の空きビルが高齢者福祉施設としてオープンするなど、若干の動きがみられる。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・包装紙やスーパーバック等の資材品の注引量が増えない。
		公認会計士	取引先の様子	・クライアントの決算状況、月次状況を見ても、売上や利益が回復傾向にあると認められる企業が少ない。むしろ、前年までは利益を出していた企業の赤字転落や売上減少が多く見られる状況にある。
		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械等の販売台数に大きな変化はみられず、依然として悪い状態が続いている。客の動きにも活発さがみられない。
		その他非製造業 [ 飲食料品卸売業 ]（経営者）	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響で得意先小売店におけるビール類の販売が堅調である。一方、清酒の売上は伸びず、当社を含め清酒に特化する販売店や卸は非常に厳しい状況である。
		その他企業 [ 企画業 ]（経営者）	取引先の様子	・販促チラシの価格が下がってきており、取引先から値下げ要求を受けているという印刷会社の話をよく聞く。
	その他企業 [ 工場施設管理 ]（従業員）	取引先の様子	・グループの外資系合弁会社の工場が経営悪化により外資系他社に売却されたことから、工事業者や商談等で人の出入りが急増し、景気回復に向かっている。ただし、今までの減収が影響し、従業員は依然として大きな買物を控えおり、景気回復を実感するまでには至っていない。	
	やや悪く なっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・七夕まつりは曜日まわりも良く人出は増えたが、気温が高すぎてお土産需要は大きく落ち込んでいる。帰省のお土産も前年のE T Cの割引効果と比較すると売上増につながっていない。
出版・印刷・同関連産業（経理担当）		取引先の様子	・複写式の伝票や書類の作成を取りやめ、パソコンを使い自社で打ち出すようになった取引先が多くなっており、売上は3か月連続で前年割れとなっている。	
一般機械器具製造業（経理担当）		受注量や販売量の動き	・自動車部品については、急激な円高で輸出環境が急速に悪化し、業績に悪影響をもたらしている。	

	電気機械器具製造業（企画担当）	それ以外	・企業業績にまだ直接の影響は出ていないが、輸出重視が多い日本の企業は、最近の円高、株安により厳しい方向に向かわざるを得ない状況である。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気回復のきっかけになると期待していた住宅版エコポイントが伸び悩んでいる。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・既存契約の更新の際にも入札となるケースが増えており、落札するのも困難な状況となっている。
	広告業協会（役員）	それ以外	・住宅展示場では、猛暑の影響で人寄せのためのイベントも全く振るわず、来場者数は前年比で3割以上減となっている。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込チラシは、多めに入った日があるかと思うと、ほとんどない日が2～3日続くというように安定せず、全体的な売上も停滞気味となっている。不景気に強いといわれているパチンコ業界のチラシが多いのもここ2～3年の特徴で、最近はこの傾向が一段と強まっている。新聞の購読も、経済的理由を挙げて止める人が多くなっている。
悪くなっている	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・市場では低価格商品が売れており、流通からは低価格商品の提案要請があるが、メーカーは非常に厳しい状況にあり、対応に行き詰っている。
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・記録的な猛暑の影響で、小売店での売上が大幅に減少している。
	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・非常に暑い日が続き清涼飲料水は売れたが、他の商品は動きがほとんどみられない。加えて、売れている商品はメーカーの欠品などがあり、販売量は前年比でほとんど変わっていない。
雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き ・正社員として採用したいという問い合わせが増えてきている。
	やや良くなっている	職業安定所（職員） 職業安定所（職員）	求人数の動き 求人数の動き ・新規求人数、有効求人数共に、前年同月比で2か月連続の増加となっている。 ・前年比で減少傾向で推移してきた新規求人が、年明けから増加と減少を繰り返すなど、多少持ち直しの動きが出てきている。
変わらない	変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子 ・「専門26業務派遣適正化プラン」により派遣の利用範囲が狭まりつつある。代わって直接雇用が増えつつあるが、雇用条件は派遣社員の待遇より悪い場合も多く、期間も短い有期雇用ばかりで雇用状況は改善されていない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き ・欠員補充をしなければ企業活動に支障が出るため、必要最低限の補充をしているが、増員には至っていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き ・円高、株安による低迷感の強さを増しているが、猛暑により食料品の流通は活発となっており、多少は動きが出ている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き ・当社でも、今年度に入り定年退職と途中退社で2名減となっているが、補充できずにいる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子 ・地域で長く続いていた菓子製造店が自己破産をし、従業員は全員解雇となっているなど、地域の中小企業は相変わらず厳しい経営を強いられている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人数は前年同月比でやや減少し、2か月ぶりに減少に転じている。この減少が一過性のものか継続的なものか予断を許さない状況である。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子 ・休業などの雇用調整を継続している企業が依然として多い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人は増加基調であるが、求人倍率の上昇は小幅にとどまっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き ・新規求職者は依然として前年比で増減を繰り返している。新規求人は前年比で増加しているものの、臨時やパート等の求人が多く、有効求人倍率は低迷が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・管外及び県外の製造業において、派遣の求人数が増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・前年比、前月比共に、新規求人倍率は減少したものの、求職者が減少してきていることから、月間有効求人倍率は上回っている。
やや悪くなっている	アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・理由はわからないが、現地に人員を派遣する仕事が激減している。

悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・受注減に加え、労働者派遣法の改正を見越した直接雇用へのシフトが加速的に進んでおり、契約満期の直接雇用が前年比50%増となっている。
	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・失業給付の仕組みや、職業訓練の延長などに代表される雇用対策が裏目に出ており、逆に労働者の労働意欲が低下しているように見える。肝心の仕事に対しての反応や対応がすべて受身になることで雇用される能力が低下しており、需給のギャップが広がり始めている。
	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・コンクリート製造業は、公共事業の減少や原材料、重油、鉄鋼品等の高騰、納入価格の引き下げにより、利益も少なくかなり厳しい状況が続いている。宝石販売業は、上質な高級品の動きはあるが、ブライダル市場での婚約指輪の単価が世相を反映して下がっており、全体的には消費抑制ムードのなかで苦戦を強いられている。